平成２１年1月1日

株式会社トモグリーン・ケミカル

1月・2月の管理ポイント

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第９７号

明けましておめでとうございます。

昨年は、抗ストレス剤『レボ』をはじめ、弊社商品を多くのゴルフ場の皆様にご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

本年は、いよいよ日本農薬㈱が研究・開発した新規殺虫剤『スティンガーフロアブル』の発売が始まります。

本剤は、鱗翅目害虫(シバツトガ、タマナヤガ、スジキリヨトウ)に対して非常に長い残効性を発揮しますので、色々な場面でご利用していただけるものと思います。

弊社も今春から発売を開始いたしますので、『レボ』ともどもよろしくお願いいたします。

本号は年初めということもありますので、いつもの管理ポイントはお休みして春先の『レボ』の使い方について紹介します。

春先(3～5月)

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!

レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと根を伸ばしておきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ＋光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保し、昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。

また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌を動かしておきましょう。

使用量：レボ	2ml/㎡	散布水量：200ml～1L/㎡	散布回数：1ヶ月に1回
光合成細菌	1～2ml/㎡	散布水量： 1L/㎡	散布回数：1ヶ月に1～2回
マリンパワー	2ml/㎡	散布水量： 1L/㎡	散布回数：1ヶ月に1回

マメ知識

株式会社トモグリーン・ケミカル

新規化合物『フルベンジアミド』の特長

今回は、日本農薬㈱が開発した新規殺虫剤「スティンガーフロアブル」の特長について紹介したいと思います。
本剤は農業分野で大好評を博した「フェニックス」と同じ「フルベンジアミド」を有効成分としており、ゴルフ場分野では、まったく新しい系統「ベンゼンジカルボキサミド系」の殺虫剤です。

本剤の効き方

本剤を摂食活動により体内に取り込んだ害虫は、筋肉が収縮し、すぐに餌を食べなくなり最終的には餓死に至ります。

写真
ゴルフ場のラフに本剤を処理した２日後の調査で、本剤の影響でアコーデオン状に体が収縮したスジキリヨトウの老齢幼虫。

本剤の残効性

本剤は、ガ類対象の殺虫剤としては、コガネムシ類幼虫対象のネオニコチノイド系殺虫剤に匹敵するぐらいの長い残効性を有しており、試験機関の報告から、グリーンで約１ヶ月、ラフ、FWで約２ヶ月の残効が期待できます。
グリーンのローテーション散布時には、一番発生量の多い梅雨明け後のお盆前後をターゲット にするのがお勧めです(ローテーション剤の基幹剤として)。
また、ラフ、FWの除草剤、殺菌剤散布時のタンクミックスにも、その残効性を活かして利用できます。

グリーンのローテーション散布の１例(鱗翅目対象)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
有機リン	カーバメート	合ピレ	ベンゼンジカルボキサミド			有機リン	カーバメート	合ピレ

３月～６月の発生量が少ない時期は有機リン、カーバメート、合ピレ系を使用し、発生数が多くなり幼虫令期がバラバラになる夏から秋にかけては、残効の長いベンゼンジカルボキサミド系を使用し、一度しっかりと幼虫密度を長期間抑えてから、また有機リン、カーバメート、合ピレ系に戻ります。